

2022年9月26日

株式会社三菱UFJ銀行

株式会社 SkyDrive への出資について

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{ほんざわ じゅんいち}半沢 淳一、以下 当行）は、次世代の産業育成、日本経済のグローバルでの競争力強化および環境・社会課題解決を主たる目的として、今般、株式会社 SkyDrive（以下 SkyDrive）への出資（以下 本出資）を実施いたしました。尚、当行は本出資において、出資者の取りまとめ役を務めております。

SkyDrive は、2018年8月に設立された、空飛ぶクルマ^[1]および物流ドローン^[2]の開発を目的とする新規事業を展開する企業です。「100年に一度のモビリティ革命を牽引する」をミッションに、日常の移動に空を活用する未来を実現するべく、空飛ぶクルマの開発・製造、および30kg以上の重量物を運搬できる物流ドローンの製造・販売を推進しています。SkyDrive は、2019年に日本で初めて空飛ぶクルマの有人飛行に成功し、2021年9月にはサービス実現のために大阪府、大阪市と空飛ぶクルマの実現に向けた連携協定を締結しています。また、国が推進する空の移動革命に向けた官民協議会^[3]の構成員として、制度設計にも関与しており、現在は2025年の大阪・関西万博開催時の、大阪ベイエリアでのエアタクサーサービスの実現を目指しています。

当行は、従前より次世代産業の一翼を担うベンチャー企業に対して、融資やビジネスマッチングなどを通じて、積極的な支援を継続してまいりました。また、ビジネスサポートプログラムを開催するなど、新規性・独創性を有する事業に取り組んでいるベンチャー企業を中長期的にサポートしております。本出資を通じ、日本経済の競争力強化に繋がる次世代の産業育成に貢献すると共に、都市部において深刻化する交通渋滞や、今後増加する道路や橋梁などの社会インフラにかかる修繕負担の軽減を含めた持続可能な交通手段の構築、および観光産業などの地域経済の活性化や災害救助などを通じた安全・安心な地域社会の構築に向けた取り組みを支援してまいります。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下 MUFJ）では、自社のパーパス「世界が進むチカラになる。」を起点に、持続可能な環境・社会の実現に向けて優先的に取り組む10の課題を特定しており、「産業育成・イノベーション支援」、「社会インフラ整備」および「気候変動対応・環境保全」を重点領域として位置づけています。MUFJ は、引続きグループ一体で成長企業領域の持続的な成長を支援すると共に、中長期的な環境・社会課題の解決および日本の産業の更なる発展・拡大に貢献してまいります。

< SkyDrive の概要 >

名称	株式会社 SkyDrive (代表取締役 CEO 福澤 知浩)
設立	2018 年 8 月
URL	https://skydrive2020.com/
所在地	豊田本社：愛知県豊田市挙母町 2-1-1 東京オフィス：東京都新宿区 豊田テストフィールド：愛知県豊田市足助地区 大阪オフィス：大阪市北区梅田 1-3-1-800 号 大阪駅前第 1 ビル 8 階
事業内容	1. 空飛ぶクルマ（電動垂直離着陸型無操縦者航空機（eVTOL））の開発・製造・販売・運航サービス 2. 物流ドローンの開発・製造・販売・運用サービス・コンサルティング

- [1] 空飛ぶクルマの明確な定義はありませんが、経済産業省は「電動垂直離着陸型無操縦者航空機」を正式名称としています。文字通り、電動・垂直離着陸型（滑走路を必要としないで離着陸できる）・無操縦者（自動操縦）といった特徴を持つ航空機になります。諸外国では eVTOL (electric Vertical Take-Off and Landing aircraft；電動垂直離着陸機) や UAM (Urban Air Mobility；都市航空交通) と呼ばれ、エアタクシーなどでの利用が期待されています。
- [2] 山間部や離島などにおける積載率の低い非効率な輸送といった物流の課題解決手段として、買物における不便を解消するなどといった生活の利便性を維持するための手段として、また災害時などにおいても活用可能な物流手段として、ドローン（無人航空機）を活用した輸配送の検討が進められています。
- [3] 空飛ぶクルマが活用される社会の実現に向けて、民間企業と協力しながら制度整備や市場形成に向けた検討をすすめるべく、2018 年に国土交通省および経済産業省が設立しました。現在は同協議会が制定した空の移動革命に向けたロードマップに基づき、各種検討が進められています。

以 上